【Ｒ５年度】重点目標の取組・概要（取組名[①広域幹線計画事業・泉州山手線延伸事業]）

担当課（内線）	都市整備課広域連携軸整備担当（３１２５）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	広域幹線道路の整備を推進する

現状と課題

　都市計画道路泉州山手線については、令和元年７月に大阪府と岸和田市の間で整備に関する覚書を締結し、用地測量に先立ち、土地境界測量を進めることを求められている。
　また、今後の事業推進にあたっては、大阪府による道路設計や企業地取得への協力などが必要となる。

Ｒ５年度の事業費（内訳）

Ｒ５年度は計上なし
※土地境界測量はＲ４で完了予定
土地境界測量は、磯ノ上山直線から岸和田中央線までの約２ｋｍの区間を実施

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

【中期的(4～5年後)にめざす成果】
・泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた整備の進捗
【成果に向けての各年度の進め方】
Ｒ５年度　事業着手に向けた大阪府建設事業評価審議会への協力
基礎資料となる沿道まちづくりに関する都市計画変更資料等の作成や提供
Ｒ６年度～　道路設計などへの協力
取付道路となる市道や周辺への防災・交通安全に関する影響を把握し、大阪府の道路設計に反映
まちづくりとの連携、調整
泉州山手線の道路事業と地域主体のまちづくり事業が円滑に進めて行ける様、市が各事業間の協議調整を行い、早期事業完了を目指す
【Ｒ５年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】
・土地区画整理事業の事業化に向けた準備組合への技術支援（地権者交渉、関係機関協議等）
・泉州山手線事業着手に向けた大阪府や周辺地権者との協議調整

Ｒ５年度以降の事業費（ランニング経費）

Ｒ６年度　６，７００千円
Ｒ７年度　６，１００千円
※現段階では影響範囲の市道改良などの設計費のみを計上（想定される作業として、取付道路の線形や幅員見直しによる用地の取得）

取組の進捗・成果を測る指標

整備進捗率　0%

成果・指標が未達成の場合の取扱い

府への要望の強化

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート①（ ①広域幹線計画事業・泉州山手線延伸事業）

担当課（内線）	都市整備課広域連携軸整備担当（３１２５）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	広域幹線道路の整備を推進する

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

道半ば

- 泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた整備の進捗

■ Ｒ５年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

おおむね達成

- 事業着手に向けた大阪府建設事業評価審議会への協力
- 基礎資料となる沿道まちづくりに関する都市計画変更資料等の作成や提供

■ Ｒ５年度において実施・実現できたこと

- R5.7　「岸和田市山直東地区まちづくり基本構想及び基本計画」策定
- R5.7　「岸和田市山直東土地区画整理準備組合」設立
- R5.7　山直東地区都市計画素案を大阪府に提出
- R5.8　三市一町による要望書を大阪府に提出
- R5.9～12　準備組合の業務代行予定者の公募を実施し、㈱フジタに決定
- R5.10～12　大阪府建設事業評価審議会で泉州山手線（山直工区）を諮問、大阪府に意見具申
- R6.1　大阪府が泉州山手線（山直工区）の事業実施の対応方針を決定

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指　標　名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	Ｒ５年度実績値
－	整備進捗率	%	-	-	0

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート②（ ①広域幹線計画事業・泉州山手線延伸事業）

■ Ｒ５年度において実施・実現できなかったこと

- 泉州山手線に関わる土地境界測量について、一部境界確定に至らなかった。

■ 課題分析

- 大阪府と連携協力し、地権者への説明等対応が必要。
- 地図訂正が必要な箇所への法務局協議を継続することが必要。
- 再立会が必要な箇所について、再測量含めた検討が必要。

■ ロジックモデルの振り返り

- 泉州山手線の早期延伸については、山直東地区の都市計画手続きや準備組合設立により、大阪府による事業実施の対応方針が公表された。
- 引き続き、事業を推進し、泉州山手線の事業着手後のアウトカムの発現に努める。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 令和６年度においては、引き続き山直東地区の都市計画、組合設立に向けた技術援助、山直東まちづくり研究会へのまちづくり支援を行う。
- 泉州山手線の境界確定については、適宜再測量を行う。

【Ｒ５年度】重点目標の取組・概要（取組名[⑥広域幹線計画事業・広域幹線沿道調査事業]）

担当課（内線）	都市整備課広域連携軸整備担当（３１２５）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

現状と課題

本事業は、泉州山手線の延伸に伴い、現在市街化調整区域となっている沿道の地区を対象に、総計、都市マスといった上位計画に基づき、無秩序な土地利用を防止し泉州山手線の整備効果の最大化を図ることを目的とするもの。

泉州山手線の事業主体である大阪府からもその取組みを強く求められている。（令和元年7月の泉州山手線の整備に関する覚書の中にも記載）

Ｒ５年度の事業費（内訳）

Ｒ５年度　２２，０００千円
（内訳）山直東まちづくりの事業化に向けた委託料　など

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

【中期的(4～5年後)にめざす成果】
・泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた整備の進捗
　まちづくりと泉州山手線の延伸は同様のスケジュール感を持って進めて行く必要があり、誘致企業の操業やまちびらきに大きく関わってきます。
【成果に向けての各年度の進め方】
Ｒ５年度　　まちづくりの具体化、都市計画手続、
　　土地区画整理事業の組合設立に向けた取組み　など
Ｒ６年度～　土地区画整理事業組合の設立
　　まちづくり事業の着手
Ｒ４年７月　土地区画整理事業準備組合設立に向けた発起人会設立
Ｒ５年度～　都市計画変更素案提出（予定）、土地区画整理事業準備組合設立（予定）※（予定）は、地域の合意形成が必要
【Ｒ５年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】
（期間）山直東まちづくりについては、Ｒ１２年度までの８年間（事業期間は７年）を想定
（対象者）仮称）山直東土地区画整理組合、岸和田市
（手法）土地区画整理事業＋各種公共施設整備

Ｒ５年度以降の事業費（ランニング経費）

Ｒ６年度　　９３，１８０千円
Ｒ７年度　　１０４，１８０千円
Ｒ８年度　　６８４，５３０千円
Ｒ９年度　　６８４，７３０千円
Ｒ１０年度　６７８，２３０千円
Ｒ１１年度　５５４，６５０千円
Ｒ１２年度　　８３，４００千円
※山直東まちづくり事業分のみ計上、泉州山手線の進捗に合わせてＲ１３以降は光明地区の整備に着手予定

取組の進捗・成果を測る指標

泉州山手線整備推進協議会の活動回数
2回（2022）➡累計8回（2025）
山直東まちづくりに関する地域住民の活動回数
12回（2022）➡累計48回（2025）

成果・指標が未達成の場合の取扱い

未定

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート①（⑥広域幹線計画事業・広域幹線沿道調査事業）

担当課（内線）	都市整備課広域連携軸整備担当（３１２５）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

道半ば

- 泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた整備の進捗

■ Ｒ５年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

達成

- まちづくりの具体化、都市計画手続、土地区画整理事業の組合設立に向けた取組　など

■ Ｒ５年度において実施・実現できたこと

- R5.7　「岸和田市山直東地区まちづくり基本構想及び基本計画」策定
- R5.7　「岸和田市山直東土地区画整理準備組合」設立
- R5.7　山直東地区都市計画素案を大阪府に提出
- R5.8　三市一町による要望書を大阪府に提出
- R5.9～12　準備組合の業務代行予定者の公募を実施し、㈱フジタに決定
- Ｒ5.1　都市計画法第16条に基づく利害関係人への説明会（2回開催）

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指　標　名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	Ｒ５年度実績値
○	泉州山手線整備推進協議会の活動回数	回	２（2022）	累計８（2025）	２
○	山直東まちづくりに関する地域住民の活動回数	回	12（2022）	累計48（2025）	22

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート②（⑥広域幹線計画事業・広域幹線沿道調査事業）

■ Ｒ５年度において実施・実現できなかったこと

- 予定どおり達成できたが、山直東地区の地権者との今後の土地利活用等に関する個別相談の件数が少なかった。
- 説明会等の地権者の出席人数が少なかった。

■ 課題分析

- 自分事としてまちづくりに興味を持っている地権者が増えてきたが、更に理解を深めてもらえる様個別訪問の回数を増やすことが必要。
- 地域や企業との連携を進め、よりわかりやすい説明をするための工夫が必要。

■ ロジックモデルの振り返り

- ロジックモデルにおいて設定したとおりの活動及びアウトプット算出を実施でき、徐々に初期アウトカムの発現が進んでいる。
- 引き続き、事業を推進し、アウトカムの発現に努める

■ 次年度以降の予定・改善内容

- Ｒ６年度においては、引き続き都市計画手続きを進め、都市計画決定を目指す。
- 準備組合においては、Ｒ６年度中に土地区画整理組合設立を目指す。
- 山直東まちづくり研究会においては、地権者説明会や個別相談会等実施し、まちづくりへの理解度の向上と土地利活用に向けた検討を行う。

【Ｒ５年度】重点目標の取組・概要（取組名[⑧市街地形成事業・久米田駅東]）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（３１２８）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

現状と課題

久米田駅東側の駅前については、車寄せ空間がなく、朝夕ラッシュ時には、駅前が歩行者、自転車、自動車で混雑し、危険な状況となっており、駅へのアクセス性の向上、歩行者の安全確保が喫緊の課題となっている。

Ｒ５年度の事業費（内訳）

Ｒ５年度　３７，０６０千円
（内訳）物件調査、用地買収、物件補償、工事

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

【中期的(4～5年後)にめざす成果】
喫緊の課題を解決するために、東側アクセス道路の整備を推進する。
今回は、段階整備となります。本整備は将来の鉄道高架化時になります。

【成果に向けての各年度の進め方】
Ｒ５年度　　物件調査、用地買収、物件補償
Ｒ６年度　　物件調査、用地買収、物件補償、**工事**
Ｒ７年度　　用地買収、物件補償、詳細設計
Ｒ８年度　　工事（Ｒ８年度の１年間の予定です。）

【Ｒ５年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】
（期　間）　Ｒ５年４月～Ｒ６年３月
（対象者）　事業区域内権利者
（内　容）　物件調査、用地買収、物件補償、工事

Ｒ５年度以降の事業費（ランニング経費）

Ｒ６年度　　１０７，６０５千円
Ｒ７年度　　９８，３２２千円
Ｒ８年度　　５３，２００千円

取組の進捗・成果を測る指標

鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（久米田地域）
8.6%（2022）➡増加（2025）

成果・指標が未達成の場合の取扱い

未定

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート①（⑧市街地形成事業・久米田駅東）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（３１２８）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

道半ば

- 喫緊の課題を解決するために、東側アクセス道路の整備を推進する。

■ Ｒ５年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

道半ば

Ｒ５年度
- 物件調査、用地買収、物件補償

■ Ｒ５年度において実施・実現できたこと

- 物件調査
- 用地買収（用地協議、代替地確保まで）
- 物件補償（補償金提示まで）

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指　標　名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	Ｒ５年度実績値
○	鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（久米田地域）	%	8.6（2022）	増加（2025）	8.9（2023）

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート②（⑧市街地形成事業・久米田駅東）

■ Ｒ５年度において実施・実現できなかったこと

- 用地買収（契約～所有権移転）
- 物件補償（契約～移転）

■ 課題分析

- 地域の課題解決のための事業に対する周辺住民への理解と合意形成の熟度を高める必要がある。

■ ロジックモデルの振り返り

- ロジックモデルで設定したとおりの活動（物件補償、用地買収）が実施できておらず、アウトプットに進んでいない。引き続き、活動の実施に努める。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 引き続き、活動（物件調査、物件補償、用地買収）を実施していく。

【Ｒ５年度】重点目標の取組・概要（取組名[⑩市街地形成事業・春木駅大宮駅線]）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（３１２８）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

現状と課題

南海本線春木駅周辺の地域拠点にふさわしい安全で利便性の高いまちづくりの実現のため、春木1号踏切付近の交通渋滞の解消を図る必要があり、さらに、春木１号踏切から春木西之内線までの区間が、近隣に位置する城北小学校の通学路に指定されことにより、喫緊の課題として、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する必要がある。

Ｒ５年度の事業費（内訳）

Ｒ５年度　　**１１９，８５４千円**
（内訳）用地測量、物件調査、用地買収など

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

【中期的(4～5年後)にめざす成果】
喫緊の課題に対応するため春木駅大宮駅線を道路拡幅し、交通渋滞の緩和、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する。
（延長L=136m,幅員B=16m

【成果に向けての各年度の進め方】
Ｒ５年度　　用地測量、物件調査
　　用地買収
Ｒ６年度　　用地買収、物件補償、**工事**
Ｒ７年度　　用地買収、物件補償
Ｒ８年度　　工事

【Ｒ５年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】
（期　間）　Ｒ５年４月～Ｒ６年３月
（対象者）　事業区域内権利者
（内　容）　用地測量、物件調査、用地買収、工事

Ｒ５年度以降の事業費（ランニング経費）

Ｒ６年度　　**１２７，３００千円**
Ｒ７年度　　６７，５００千円
Ｒ８年度　　３１，０００千円

取組の進捗・成果を測る指標

鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（岸和田北部地域）
16.7%（2022）➡増加（2025）

成果・指標が未達成の場合の取扱い

未定

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート①（⑩市街地形成事業・春木駅大宮駅線）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（３１２８）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	２　経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

一部達成

- 喫緊の課題に対応するため春木駅大宮駅線を道路拡幅し、交通渋滞の緩和、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する。

■ Ｒ５年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

達成

Ｒ５年度
- 用地測量、道路詳細設計
- 物件調査、物件補償
- 用地買収

■ Ｒ５年度において実施・実現できたこと

- 用地測量、道路詳細設計
- 物件調査
- 物件補償
- 用地買収

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指　標　名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	Ｒ５年度実績値
○	鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（岸和田北部地域）	%	16.7（2022）	増加（2025）	14.5（2023）

【Ｒ５年度】重点目標の取組・評価シート②（⑩市街地形成事業・春木駅大宮駅線）

■ Ｒ５年度において実施・実現できなかったこと

- 特になし

■ 課題分析

- 特になし

■ ロジックモデルの振り返り

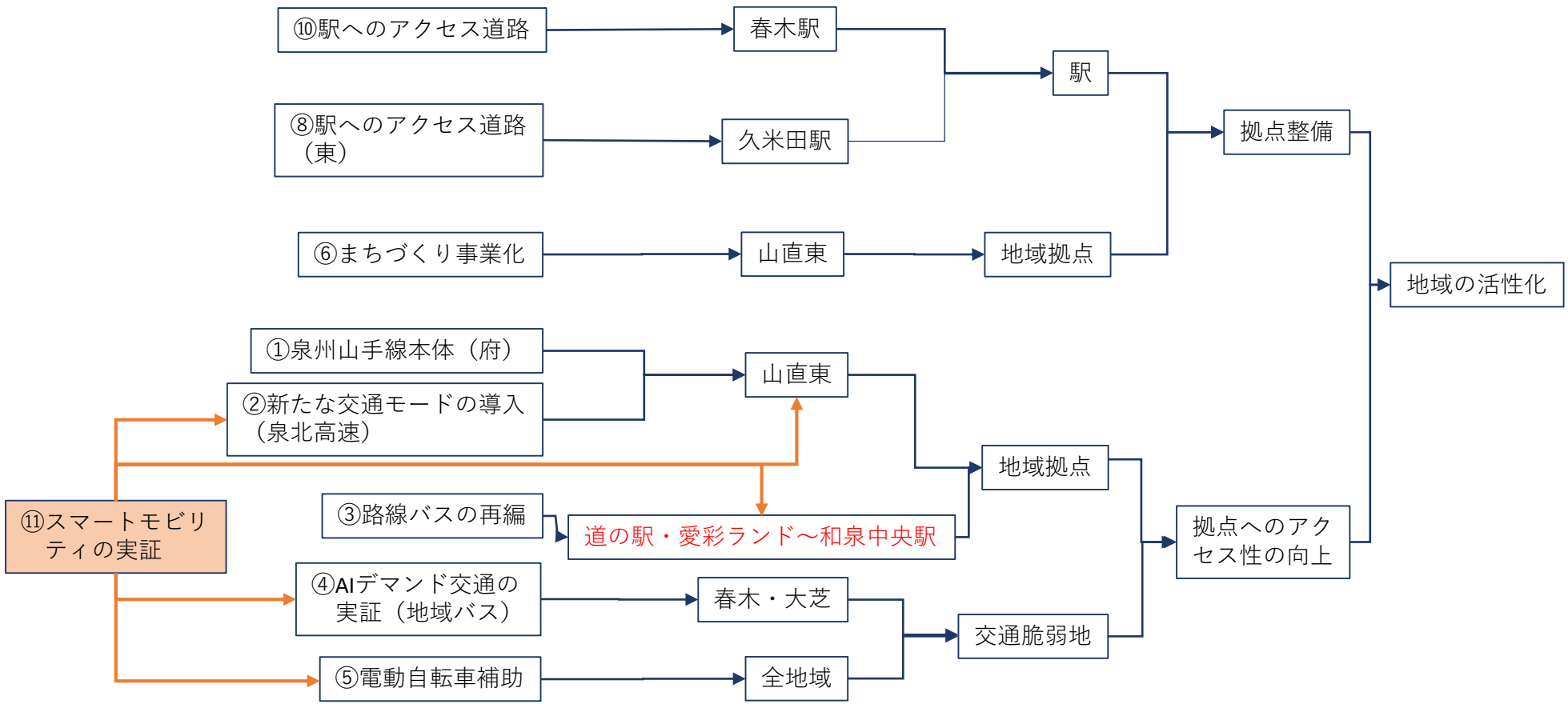
- ロジックモデルで設定したとおりの活動（設計、物件調査、物件補償、用地買収）が実施できている。なお、成果については、アウトプット後（道路拡幅後）に発現するものであり、今年度に実施した活動は、指標の実績値に直接結びつくものではない。引き続き、アウトプットを継続していく。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 引き続き、活動（物件調査、物件補償、用地買収、工事）を実施していく。

【Ｒ５年度】重点目標の取組・ロジックモデル

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について　など）